**市長**・ポストというのは与えられれば誰でもやると思うんです。やってみないうちにあいつはやれないと思うこと自体間違いで、管理者の立場が問われる問題だと思います。

**岸**・先日「男性にも育児休暇があればいいわね」という話しが出たんです。女の先生は仕事にすごく意欲があっても、お腹が大きくなれば休まなければいけない。産後も相当の期間子育てをしなければならない。そのために意欲が低いように見られがちなんですね。欧米では男性にも育児休暇が与えられていて育児ノイローゼが少なくなったとテレビに入ってました。（笑）

岸　千鶴子さん

**市長**・男は育児は奥さんに任せっきりということが多いですね。今まで男性はまさに働く人間だったわけで、こうした世の中が誤っていたのでどうしても直さなければいけません。育児の半分は男性も協力するというような……。

**可会**・現在、市には女性議員はいませんね。皆さん、女性の声を市政に反映させるにはどうしたらよいとお考えでしょう。

**岸**・女性だけだと閉鎖的なところがあり、横の繋りが広がらないところがあるんですね。でも、すぐそばの人が議員にならないとだめだという気がします。市川房枝さんのような偉い人を想像するからだめなんで、井戸端会議の延長から市長さんと喋るといった形がいいのでは

**市長**・女性が社会に出る機会は、歴史的にも足りなかったですね。それと男性と比べて他人と打ち解けるのに時間がかかりますね。また自分たちの代表を出す場合も、手間取る。しかし戦後、人々の意識は革命的に変ってきている。決して女性議員が生まれないなんていう社会環境じゃない。ただ、なかなか踏切りがつかない。踏切れるような仲間を五人でも十人でも作るまでが難しいけれど、それさえできればそれ程大変な社会ではないと思います。

## 夕方六時には店を閉めている これでは大館の発展はない

**司会**・皆さんから見て、大館は今後どのようにしたら魅力ある街になると思いますか。

**小泉**・これからの大館は観光都市をめざしているというようなことを聞きましたが、例えば夕方六時に商店がシャッターを閉めているようでは、絶対に発展はないと思うんです。共稼ぎの人は五時、六時に仕事を終えさて買物をしようと思うと店がみんな閉まっている。これでどうして大館の発展と結びつくのか。たまたま機会があってお店の人と話しをしたら「従業員の多くは遠くから来ていて、六時過ぎには帰りのバスがなくなってしまう。で送っていかなければいけない」とこうなんですね確かにその店々で事情はあるんでしょうが、だったら主人自らが店に立つべきだ、と思うんです。夜、大町で開いているのは喫茶店とパチンコくらい。将来十万都市にとか、観光都市にと考えても、これでは何もない街だったと言われても仕方ないと思います。

## 魅力ある街か どうかは自分自身の心の問題

**五十嵐**・私も同感です。私は高校生のころ大館が嫌でしょうがなかったんです。どこに行っても、何をしていても「あれはどこの誰で…」とすぐわかってしまう。二年間大館を離れた後、結婚することになって「ああ、一生大館にいなけりゃいけないどうしょうかな」が実感でしたでも、今はこう考えています。自分でその土地や人の中に飛び込んで行って、多くの人と友だちになり話しをする。そうやってとけ込むことで街も人も好きになる。自分が嫌だなあと思えば発展はないんですね。魅力というのは他人が作ってくれるんじゃなくて自分自身の心の問題だと思います。小泉さんのいう観光や商店の問題も、できることはどんどん積極的にやっていかなければいけないと思います

**岸**・私は比内町に住んでいますから、大館はずっと客観的に見れる立場にいたんですが、一口に言って大館は〝都会〟でしたね。大館の高校に来た時は周りの人たちがみんな都会的に見えてドキドキしました（笑）。大学時代こっちに戻って来ますね。駅前に降りる。ああ大館だと思いますね。何とも言えない気持ち、古里の入り口という感じがしてのんびりする。そこにボーッと立っててもいい。決して拒否する様子はない。人の言う古里がそこにあると思うんです。で、いつか友だちを呼んで一緒に帰って来ました。すると駅前を眺めて「ここが本当に大館？」（笑）大館の名は結構知られているんですよ。でも駅前がものすごく貧弱。よそから来る人は駅前で降りて不安になるらしく、どこかローカル線の駅で路線を間違えたんじゃないかと思うらしいんです。もう少し大館の駅前だという感じ、欲しいですよね。もう一つ、友だちで商工会議所に行ってる人がいます。その人たちは一生懸命やってる。ところが都会からのUターン組をはじめ、今ひとつ乗ってこない。古里は古里でいいんですね。その友人は「観光か産業かどちらかに的を絞らなければ未来はない」こう言ってます。

**五十嵐**・若い人が多いと活気がありますね。大学が大館にもあれば随分違うと思いますけど。

**市長**・その話しは、順調に進んでいます。

**司会**・どうでしょう市長、これからの街づくりについて。

**市長**・少しキザな言い方かもしれませんが「人生とは一体何だろう」と考えることがあるんです。いろいろありますが、最終的に私だったらいかに多くの人たちと出会えるかという点に尽きるような気がします。しかしこれは自らがその機会、場所を求めていかなければいけないんですね。多くの人と交わることは自分を磨くことに繋がる。そこで女性の皆さんにももっと表に視野を広げてほしい。ことに子供に対する責任を感じたなら、そこから出発して子供たちの未来のためにも、平和のこと、教育、いろいろなことに積極的に関心を持っていただき、横の繋りを密にしてほしい。それが女性が変りうる一番の要素じゃないかと思います。公民館、文化会館、婦人会館をどんどん使っていただく。こうしたことが実は都市機能を高めるんです。

市長　畠山　健治郎

さっき営業時間の話しが出ましたが、昭和三十年代、テレビの出現以来マイホーム優先の風潮が高まり、仕事を終えるとすぐ帰宅する人が増えました。従って夜の人出は少なく、バスを走らせても乗る人がいないわけです。これが即、商店のシャッターうんぬんということではありませんが、この辺が悪循環を生み出す大きな要因の一つでもあるわけです。産業構造、コミュニティの場所など相互的に結びついてこそ全体の機能が高まると言えるでしょう。働く婦人の家などは、コミュニケーションの場として大いに利用してください。

**小泉**・女性の地位向上のために横の繋りを、ということでしたが、私は集まる器じゃなくて集まれる機会がほしいですね。どうしても公民館の市民学級や婦人の家は、私たちからは遠い存在のような気がしてならないんです。

小泉　槙子さん

**市長**・開かれた場所が身近にもあるんですよ。例えばPTAですけど、これを自分の子供を見るところだけと受け取ってしまっては、大変困るんですね。先生と父兄のまさに教育をどうしようかを語る機会、活動の場なんですから。

**司会**・婦人の家では夕方五時過ぎの行事、活動もたくさんありますけど、会員を募集してもなかなか人が集まらないと聞きます。企画にもよるんでしょうけど、参加する私たちの意欲にも関係するんじゃないでしょうか。

**市長**・それと企業ももっと生涯教育には責任を持たないといけないでしょう。

**小泉**・働く婦人の家の「働く」や、勤労青少年ホームの「勤労」の文字を取りたい気がします。そのために、私たちにすると何か制限されてしまい、入りずらいところがあるんですね。

**市長**・そういう見方もあるかもしれませんが、施設は市民の皆さんに使ってもらうためにあるんで、現に青少年ホームではママさんたちのコーラスグループなどにも使ってもらっているんですよ。

**斎藤**・市長さんになってから随分いろんな施設ができて、私たちの方にも会館（雪沢）ができとても喜んでいますけど、長木公民館では催し物が多いのにこちらではあまりありません。私たちも何か余暇を利用してやってみたいと思っているんですが、市の講師の方たちも雪沢は遠いから来てもらえないんじゃないかなあと先読みする人も多く、自分を高めるための催しやサークルがほしいといつも思います。

## 行政がお膳立てし 皆さんが選択する というのは誤りです

**市長**・公民館というのは、公の開放された施設なわけです。ですから、サークルでもグループでも大いに利用してほしいんです。ただ戦後三十七年の累積というのは恐しいもので、行政が何もかもお膳立てしてくれるそれを選択して参加していけばいいという誤った解釈があるんですね。そうではありません。

**司会**・せっかく話しも盛り上ってきており、ここで中断するのは大変残念なんですが、最後になにかなたか。

**小泉**・これからもこういう女性との語る会を年一回でもいいですから持っていただきたいと思います。

**市長**・わかりました。お約束しましょう。

**司会**・では皆さん、長時間ほんとに貴重なご意見、どうもありがとうございました。これで新春座談会を終らせていただきます。

※　※　※

編集の都合により、座談会の内容を一部割愛させていただきました。ご了承願います。

# 活力に満ちた大館市の建設をめざして

## 謹賀

### 〈行政委員会〉

| | |
|---|---|
| 議会事務局長 | 成田鉄蔵 |
| 選管・事務局長 | 西村正三 |
| 農委・事務局長 | 伊藤一雄 |
| 監査・事務局長 | 石井景紀 |
| 教育長 | 月居泰 |
| 教委・総務課長 | 梅村長 |
| 〃・学校教育課長 | 仲谷安 |
| 〃・社会教育課長 | 菊地博 |
| 〃・社会体育課長 | 藤原金三 |
| 市民文化会館館長 | 田面木敏夫 |
| 中央公民館長 | 虻川誠造 |
| 図書館長 | 浜松和男 |

### 〈広域市町村圏組合〉

| | |
|---|---|
| 事務局長 | 畠山次男 |
| 消防長 | 秋元五郎 |
| 消防署長 | 小笠原正雄 |

### 〈市立総合病院〉

| | |
|---|---|
| 院長 | 福井新 |
| 副院長 | 田中隆夫 |
| 第一内科科長 | 根田芳昌 |
| 〃医長（兼） | 山田幸夫 |
| 第二内科科長 | 柳谷重利 |
| 〃医長 | 上原修 |
| 〃医長 | 塩野時雄 |
| 外科科長 | 武内俊 |
| 〃医長（兼） | 猪野満 |
| 泌尿器科科長 | 人見浩 |
| 脳神経外科医長 | 菅原厚 |
| 小児科科長 | 工藤真生 |
| 眼科医長 | 黒滝淳二 |
| 産婦人科科長 | 神部憲一 |
| 整形外科科長 | 藤沢洋一 |
| 〃医長 | 塩野真弓 |
| 神経精神科科長 | 林進 |
| 歯科科長 | 戸田正典 |
| 放射線科科長 | 猪野満 |
| 手術室長 | 嶋野松朗 |
| 臨床検査科科長（兼） | 田中隆夫 |
| 薬剤科科長 | 山田亮逸 |
| 栄養科科長 | 山田幸夫 |
| 総看護婦長 | 武石ミチ子 |
| 事務局長 | 猪野泰郎 |